

学生の県外転出の状況と対策の方向性

－ 19市町村のヒアリング結果より －

県外大学等に進学した学生（新卒、第2新卒）への県内就職に向けた取組（進学後の地元とのつながりづくりなど）の現状と課題について、令和3年7月から8月にかけて県内市町村と意見交換

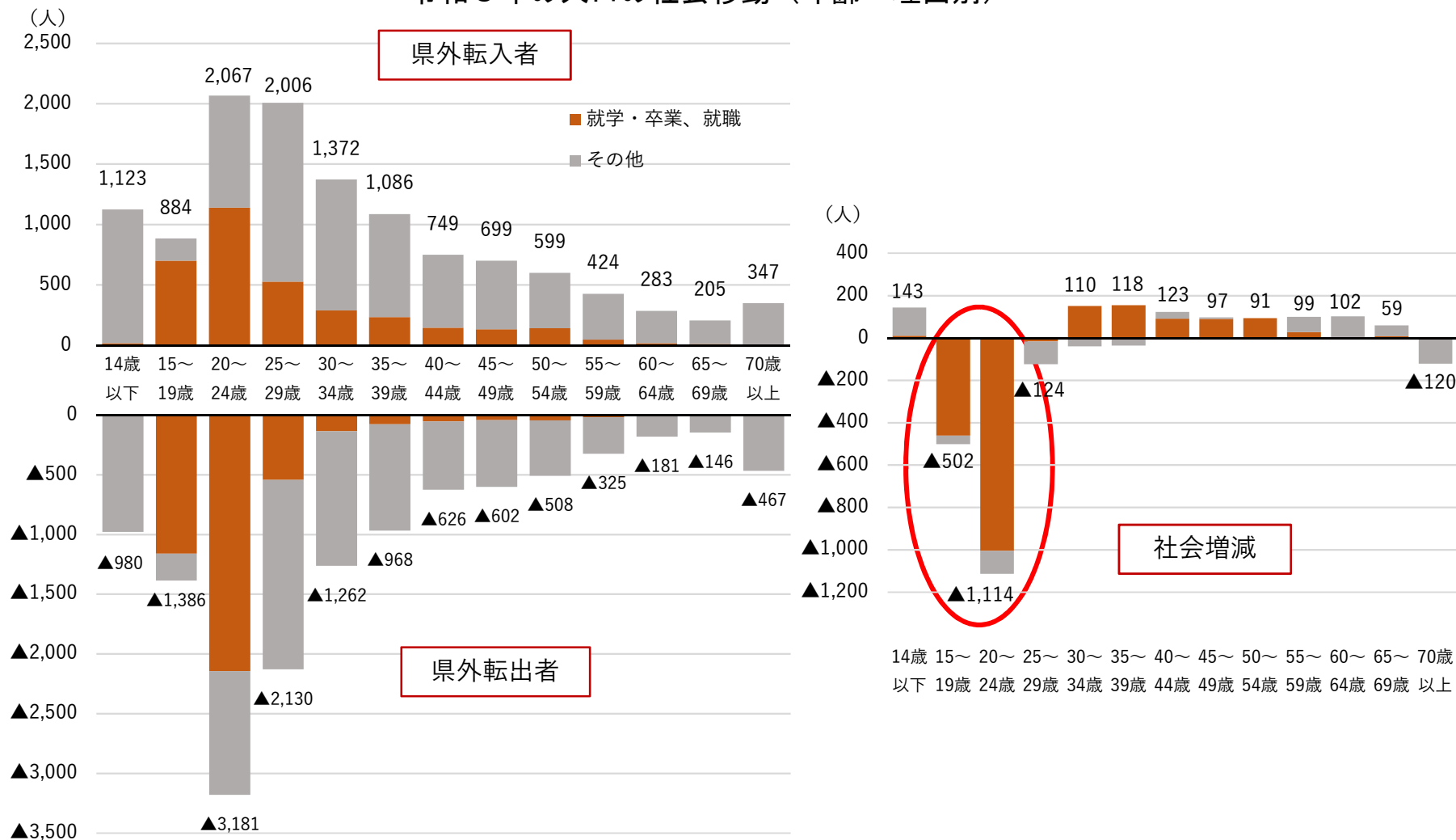
目次

- 1. 現状（島根県の人口の社会移動等） p 2
 - 2. 市町村ヒアリング（趣旨等） p 8
 - 3. 今後の方向性 p11
- [参考資料]
- 個別市町村のヒアリング概要 p13

1. 現状 ①島根県の人口の社会移動

- 島根県の社会移動の減は、15～24歳の若年層の就学・卒業、就職による転出が主な要因

令和3年の人口の社会移動（年齢・理由別）

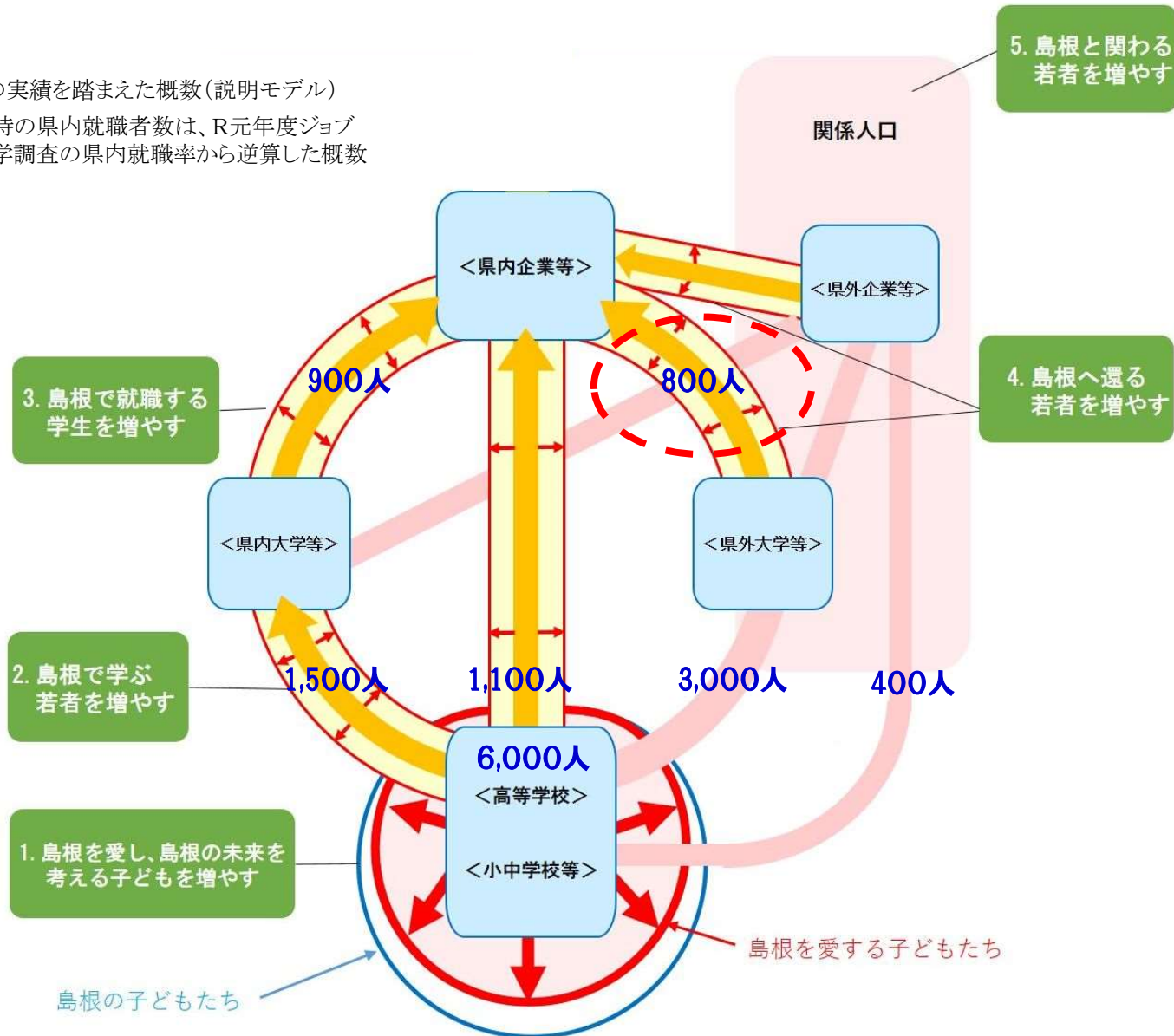


1. 現状 ②島根を創る人づくりプロジェクト

- 第1編の基本目標Ⅳ「島根を創る人をふやす」の中の「新しい人の流れづくり」として実施

注1) 人数はR元年度の実績を踏まえた概数(説明モデル)

注2) 県外大学等卒業時の県内就職者数は、R元年度ジョブカフェしまねの大学調査の県内就職率から逆算した概数



1. 現状 ③県立高校生の意識変容

- ふるさと教育や高校魅力化などの取組により、生徒の意識が良い方向に変容

項 目	R元	R2	R3	R3-R元
地域社会の魅力や課題について考える学習に対して主体的に取り組んでいる	51.9%	54.5%	56.3%	<u>+4.4 P</u>
地域の課題など、興味を持ったことに対し橋渡しをしてくれる大人がいる	69.2%	72.8%	75.7%	<u>+6.5 P</u>
ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	79.9%	80.9%	82.0%	<u>+2.1 P</u>
自分の将来について明るい希望を持っている	70.9%	71.3%	72.7%	<u>+1.8 P</u>
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	69.9%	69.4%	70.9%	<u>+1.0 P</u>
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	52.5%	52.8%	53.2%	<u>+0.7 P</u>

出典：県立高校魅力化アンケート調査（R3年度島根県教育委員会）

1. 現状 ④島根県出身大学生の県内就職率

- 県内進学した大学生の県内就職率は約78%だが、県外進学した学生の県内就職率は約28%

大学名等	H30年度	R元年度	R2年度	3ヶ年平均
県内四年制大学	78.0%	72.2%	<u>77.9%</u>	76.1%
島根大学	75.9%	72.4%	75.5%	75.6%
島根県立大学	80.1%	71.9%	81.8%	78.1%
県外四年制大学	28.1%	26.6%	<u>27.8%</u>	27.5%

出典：（県外四年制大学）島根県出身者の在籍状況に関する調査（ジョブカフェしまね）

1. 現状 ⑤大学生に対する県内就職に向けた取組

● 現在の取組は、就職活動が始まる大学3年生中盤からの取組が中心

■ 若年層雇用対策事業「大学生の県内就職の促進」取組スケジュール

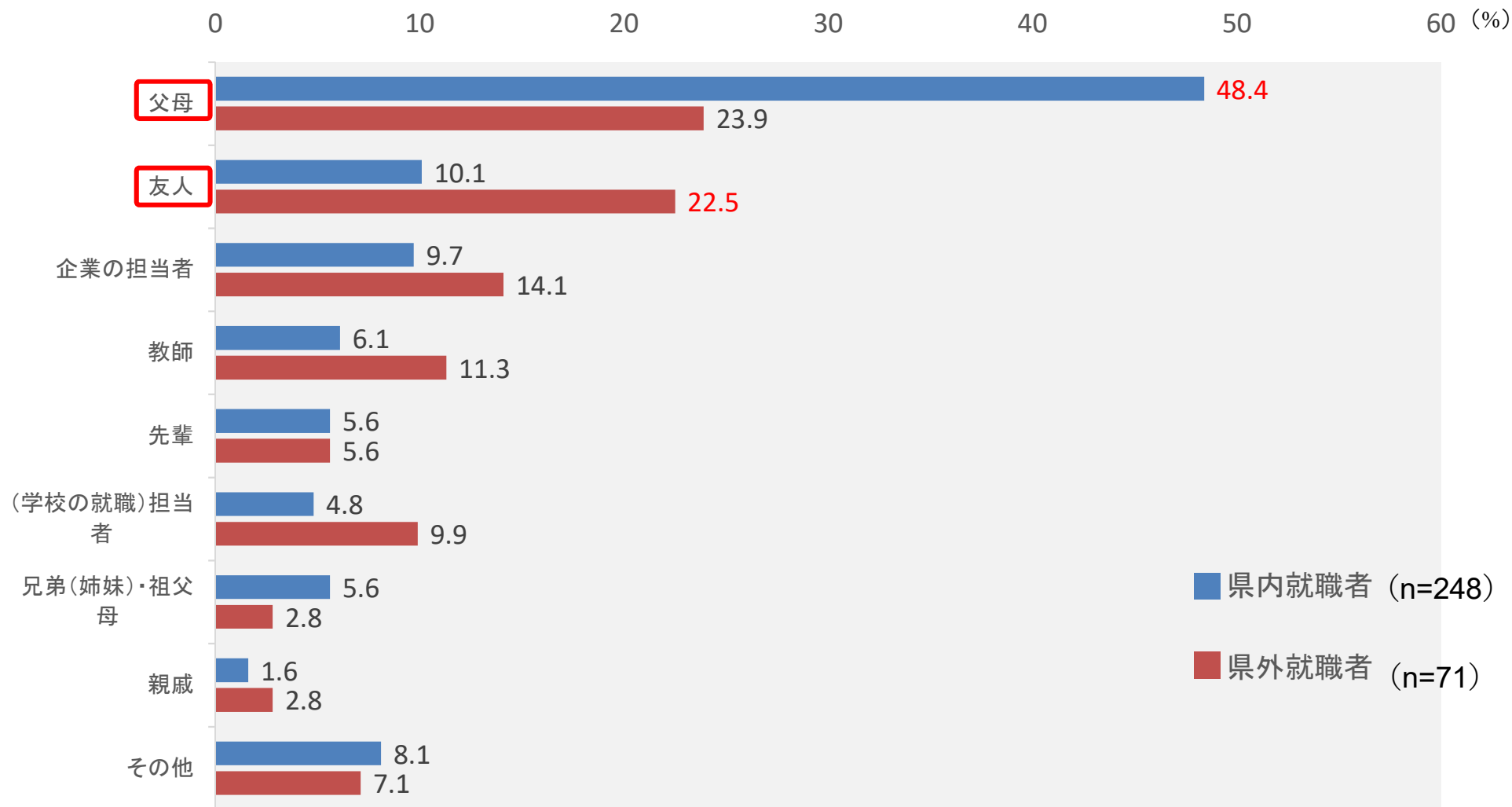
● 国事業等 ● 県事業

学年	通年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年生	・LINE配信 (セグメント配信)			★選考解禁 ●合同企業説明会④			●合同企業説明会⑤ ●就活バス運行	★内定式		就職活動の早期化に対応し、再構築			
3年生	・LINE配信 (セグメント配信) ・大学別交流会 ・情報発信 「先輩のホンネ」 〔山陰中央新報〕 ・ジョブガイ						インターンシップ	「就活期」集中取組期間 長期有償インターンシップ	1dayインターンシップ (仕事体験)		企業説明会解禁★		
							学生と企業の交流会① ● (県内大学) 合同企業説明会① ● オンライン (事前録画)	学生と企業の交流会② ● (年末ジャンボ企業博)		マイナビと連携した情報発信 (ポータルサイト開設、ライブ配信等)	マイナビ合説に 相談ブースを出展		●合同企業説明会② ●就活バス運行 ハイブリット
										業界研究会① ● 〔大阪、岡山、広島、県内大学 コア学園、オンライン〕		●保護者向けセミナー (山陰中央新報)	
										女性活躍職種PRキャラバン			
1,2年生	・LINE (セグメント配信) ・大学別交流会 ・協働プログラム 〔産学官コン〕 ・ジョブガールJ			女子向けイベント① (大阪、広島で複数回実施)		女子向けイベント② ● オンライン		女子向けイベント① (大阪、広島で複数回実施)					インターンシップ ●女子向けイベント③

島根からの情報が届きにくく、
かかわりが薄い期間

1. 現状 ⑥就職決定の際に最も影響を受けた人

- 県内就職者は親からの影響を強く受ける一方で、県外就職者は、友人からの影響が高い。



2. 市町村ヒアリング（趣旨）

- 本県の社会減の要因の一つとして、県外の大学等に進学した学生がそのまま県外で就職し、県内に戻らないことが挙げられる。
- 前頁の調査結果によると、県内就職を選択した若者が親の影響を強く受けていることに対し、県外就職を選択した若者は親と友人の影響が同程度
- このことから、県外在住の学生に対しては親へのアプローチに加えて、同郷のコミュニティ・友人関係を維持することが、県内就職への関心を高めることにつながる可能性があると考えられる。
- これまでの県の取組は、大学3年生秋以降の就職活動期における県内就職支援（就職フェア、企業説明会の開催など）が中心だったため、大学1・2年生をはじめとする県外大学生等と地元とのつながりを維持する必要性や現在の取組状況及び課題について、市町村と意見交換を行った。

2. 市町村ヒアリング（結果の概要）

- 県外大学進学後の地元とのつながりを維持するための取組について、県内19市町村に対し、令和3年7月から8月にかけて意見交換会を行ったところ、以下のような課題認識があった。

1. 高校卒業後の地元とのつながりの希薄化

- 高校を卒業後に地元とのつながりが希薄になっており、地元からのアプローチも少なくなっている。高校卒業後も地元とのつながりを維持させる取組が必要（松江市、益田市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、邑南町、吉賀町、隠岐の島町）
- 従来のUターン・Iターン策に加え、新卒向けの取組を進める必要がある。（松江市、出雲市）

2. 学生情報を把握していない、又は活用できていない

- 大学進学する学生の情報を十分に把握できていない。（益田市、安来市、江津市、西ノ島町）
- 独自の学生登録やイベント時による情報収集等を行っているが、登録の伸び悩みや、情報が限定的で更新もされていないなど、施策に十分活用できてない。県が行う「しまね学生登録」を活用させていただきたい。（出雲市、奥出雲町、川本町、美郷町）

2. 市町村ヒアリング（結果の概要）

3. 地元で貢献したい卒業生を活かしきれていない

- 高校を卒業しても地元で貢献したいと考える若者はいるが、それを実際に地元へつなぎとめる仕組みが不足している。（飯南町、川本町、海士町）

4. 地元とのつながりづくりは、きめ細かな対応が必要

- 県外の学生等へ情報発信する際にも、個人情報の管理や、若者に訴求性のある情報内容や発信方法などの検討に時間がかかる。

（例）コンテンツ→Uターンした先輩の声や地元ならではの情報
発信方法→SNSか、地元の友人や親・高校時代の先生経由で届けるか
（浜田市、奥出雲町、飯南町、川本町、邑南町）

- これらのきめ細やかな対応を行うためには、専属の人材配置（マンパワー）が必要（益田市、大田市）

3. 今後の方向性（ゆるやかなつながりづくり）

前述の課題に対して、今後の対応は以下のとおり

① LINE公式アカウント「しまね登録」による県出身者への情報発信

- ・ 来春卒業見込みの高校3年生全員を対象に、LINE公式アカウント「しまね登録」への登録を呼びかけ
- ・ 県、市町村、母校等から寄せられる地元情報を、対象者の属性（セグメント）別に定期配信



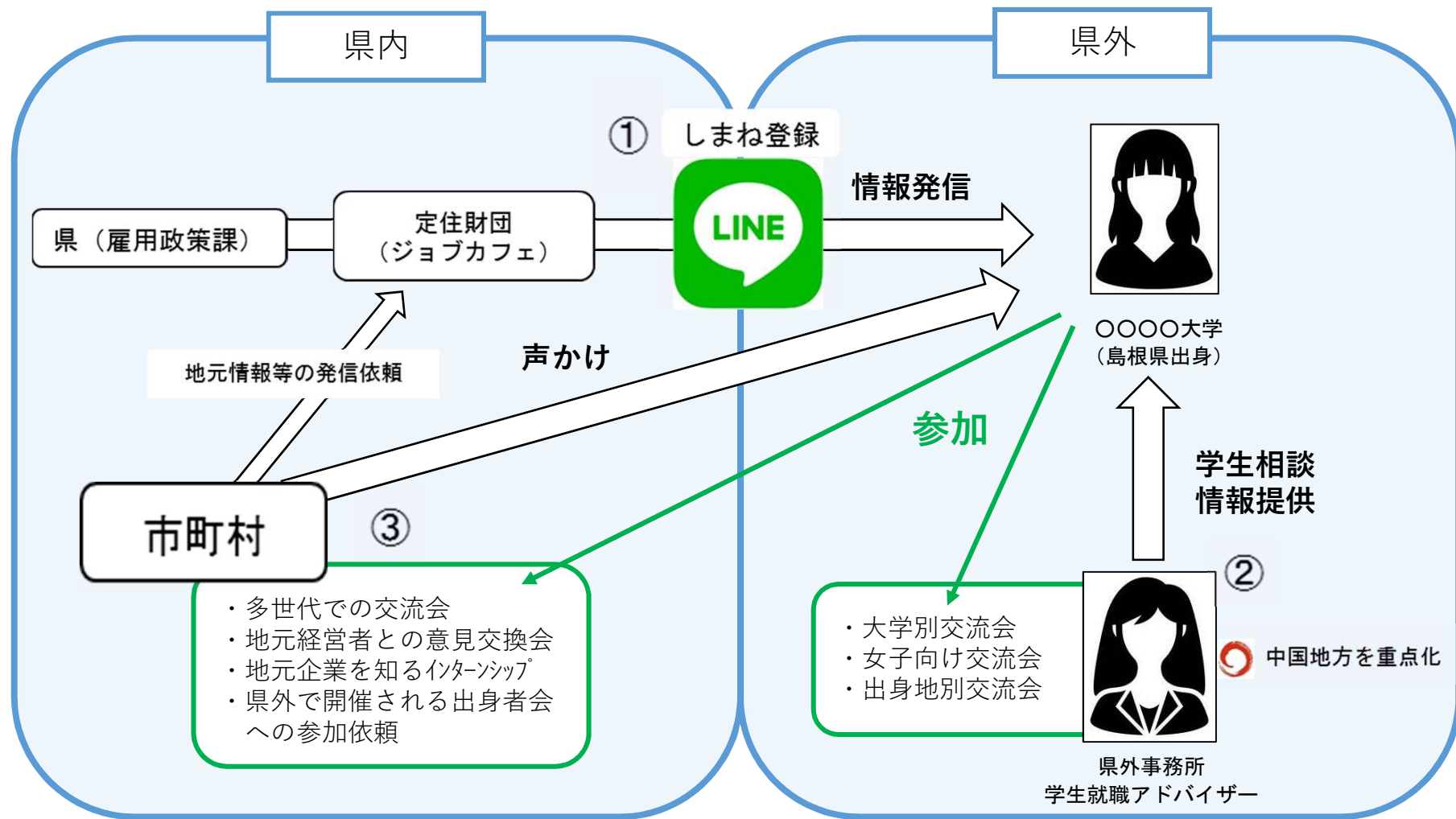
② 県外進学者へのアプローチ強化

- ・ 島根県出身の学生が多い中国地方をUターン就職の最重点地域とし、学生の個別相談や低学年向け交流会等を実施

③ 地元とのつながりを維持する仕掛けの構築

- ・ 高校魅力化などにより培った関係性を引き続き維持するために、市町村が情報発信や学年等の段階に応じた交流会などモデルとなる戦略的な取組を行う際に、応援する仕組みを検討

3. 今後の方向性（ゆるやかなつながりづくりイメージ図）



- ① しまね登録（LINE）による県内高校出身卒業生全体へのアプローチ
- ② 主に中国地方の出身学生を対象とした個別相談、低学年向け交流会の実施
- ③ 市町村による声かけ、情報発信、帰省時のイベントや活動機会の提供

[参考資料] 松江市

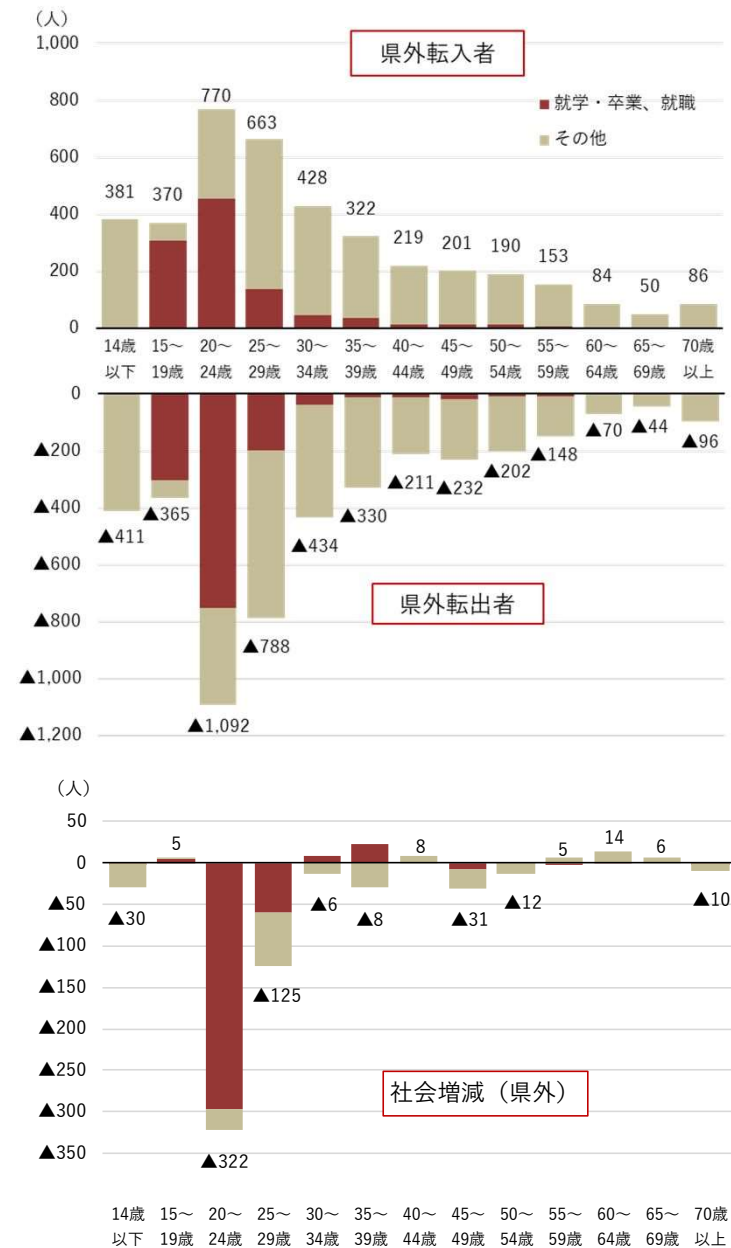
【現状と課題】

- 新卒のUターンが少ないのは、学生自身が地元企業を知らないことに加え、親も地元でどのような企業があるのか把握していないことが影響しているのではないかと。
- 学生に情報を適切なタイミングで届けるためにも、つながりを維持することが大切
- 高校在学中から関わるができるような取組や、各校の理解と連携・協力が不可欠
- ガイダンスやインターンシップ等のイベントを経て、地元就職に対してどのような意識変容が起こったのかを調査・分析することが必要
- 市の外部委員会でも「県内高校生の進学・就職時点で関係が途絶えてしまう。進学・就職後の追跡調査が必要」とのご意見を頂いている。

【今後の方向性】

- 高校在学中から切れ目なく、市の魅力に触れる機会を設け、進学期・就職活動期等の状況に応じて必要な情報を提供し、若者のUターン、市内定着に繋げる。
- 地元企業について、若者には高校を卒業するまでにより多く知ってもらい、親世代にも知る機会を提供する。
- これまでのUターン策に加え、地元出身者の新卒対策を進める必要がある。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 浜田市

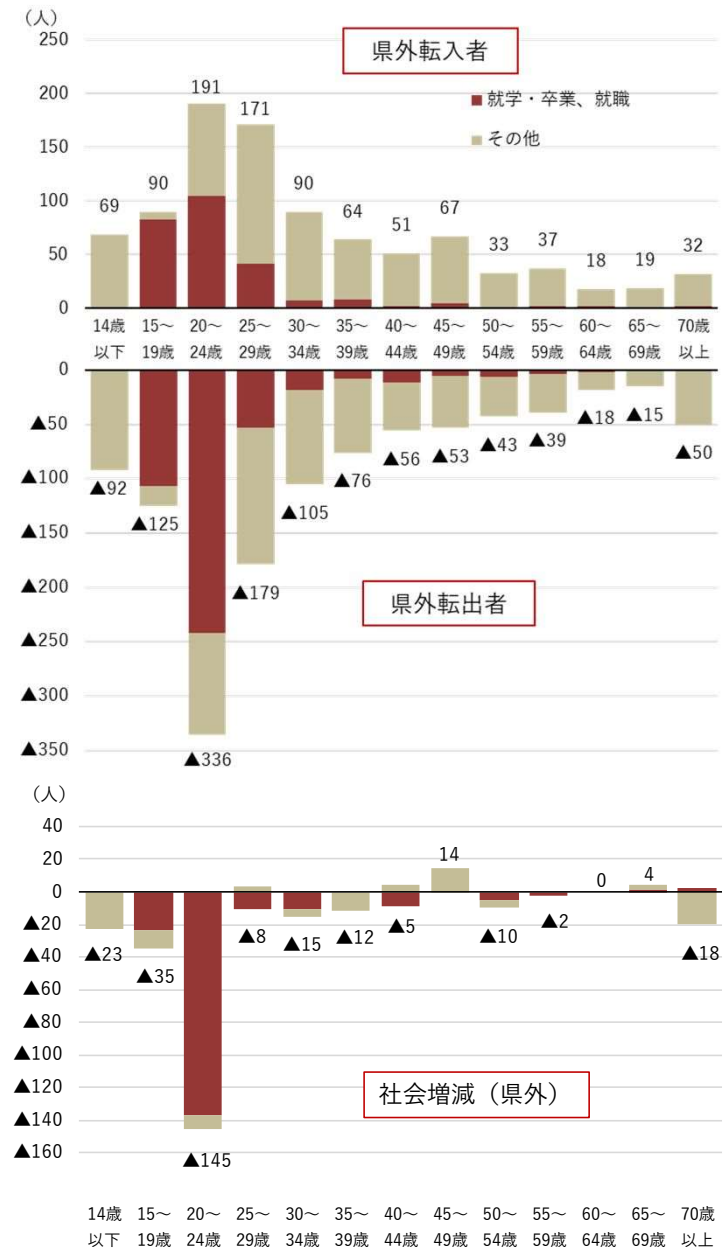
【現状と課題】

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、社会増減の動きが例年と異なる動きをしており、原因分析が難しい。
- 大学1，2年生は、まだ就職に意識が向いておらず、アプローチの仕方が難しいように感じている。
- 県外大学に進学した学生等と、地元とのつながりを維持することを目的に、令和2年1月から「浜っ子LINEクラブ」という公式アカウントを開設
- イベントや就職情報、先輩からふるさとへの想いや人生のエッセンスをコラム形式で定期的に配信
- LINE事業は若い職員で直営でやっているが、最近の浜田の様子や先輩コメントなどが開封率が良い。

【今後の方向性】

- 今後は、大卒等の新卒者やUターン者を意識した企業誘致や各種施策により一層取り組みたい。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 出雲市

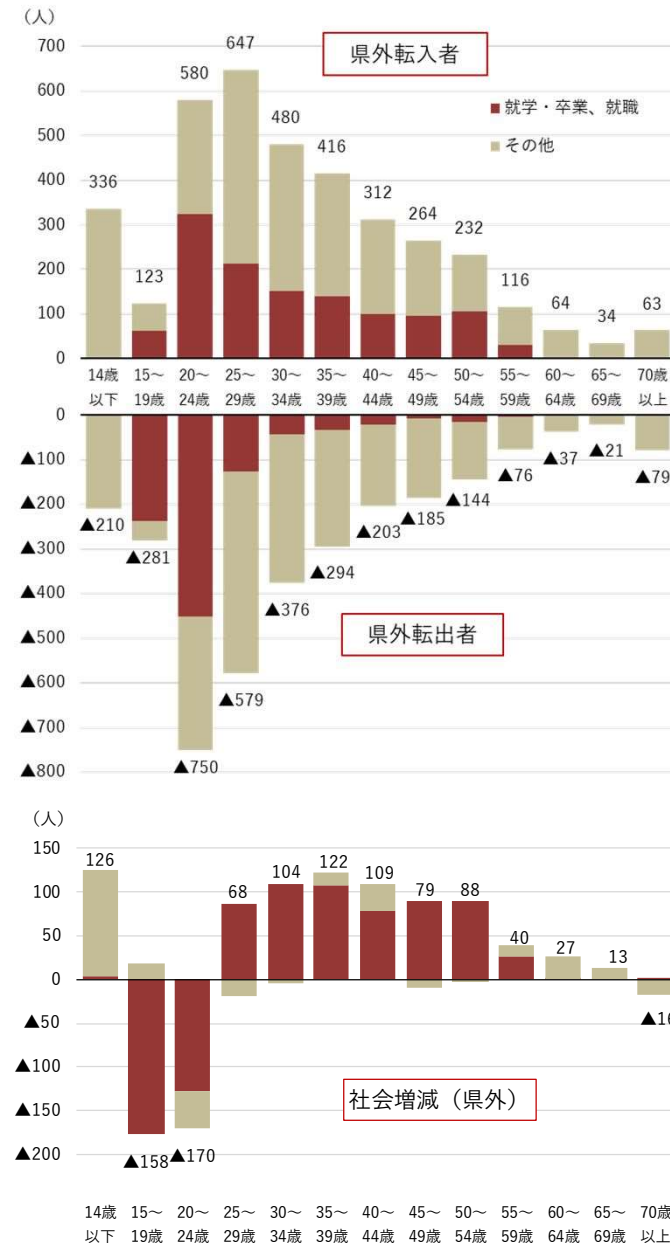
【現状と課題】

- 市独自でいずも学生登録を行っているが、伸び悩んでいる。県の学生登録の情報も活用させてほしい。
- 新卒・第2新卒のUターン数が少ないのは、親も子が地元就職を望むことが難しいと感じていることも影響しているのではないかと。
- 県外大学等訪問、県外での地元企業との交流会など、つながりを維持する取組を実施
- 市HPの移住支援サイトから、出雲暮らしのタイムリーな情報を移住者目線で積極的に発信（「出雲大好き！ターン女性ブログ」や「Uターン者の声」等）

【今後の方向性】

- 新卒獲得対策にもより一層力を入れていきたいと考えている。
- 現在、県外へ進学した学生の地元就職を更に促進するため、学生就職支援窓口の設置を検討中

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 益田市

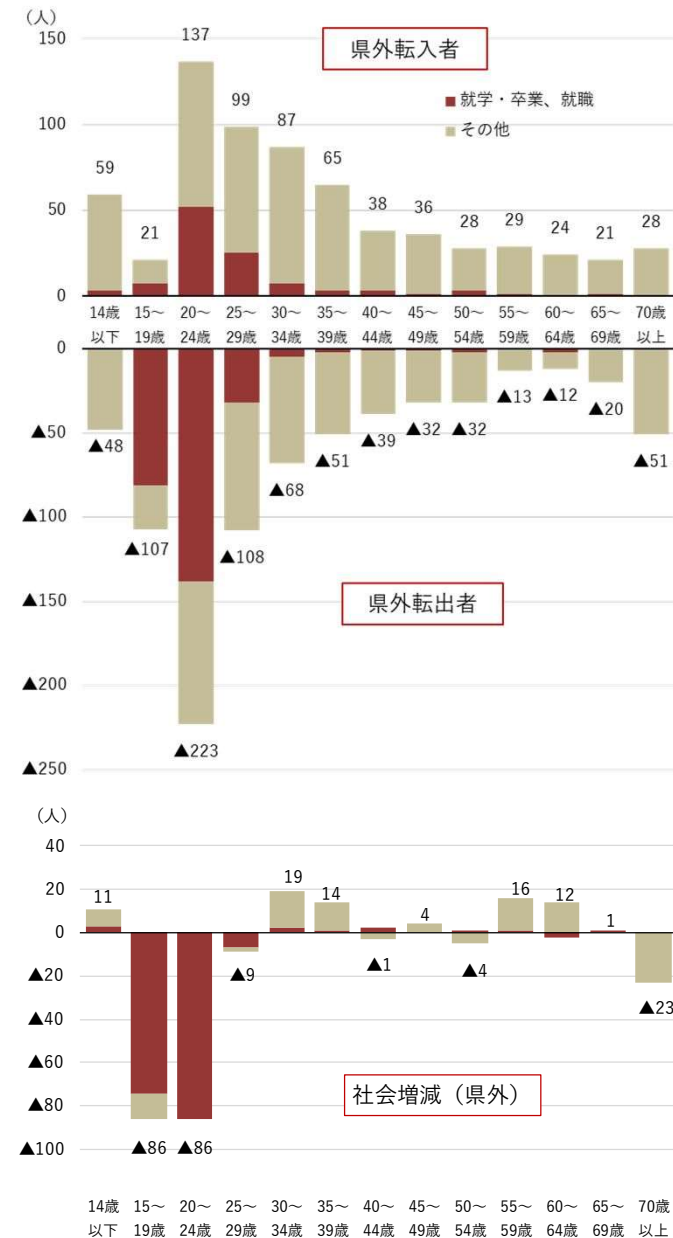
【現状と課題】

- 益田市から転出し大学進学をした学生と継続的なつながりもないため、新卒でUターンを考えてもらう機会が創出できていない。
- 市内企業を就業先の一つの選択肢にしてもらうよう情報提供等含めた継続的な関わりを持つ仕組みが課題
- 連絡は市からの一方通行のみで双方向のやりとりが必要。そのためには、専門の人間がやることが重要

【今後の方向性】

- 県外大学に進学した学生の情報はつかめていないが、学生への情報発信など行う意向はある。
- Uターンを考える年齢が30歳をピークに減少している状況。Uターンのきっかけ作りのため、市出身の29歳による益田暮らしの仕事、住まい、子育てを知り考える会の開催を検討

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 大田市

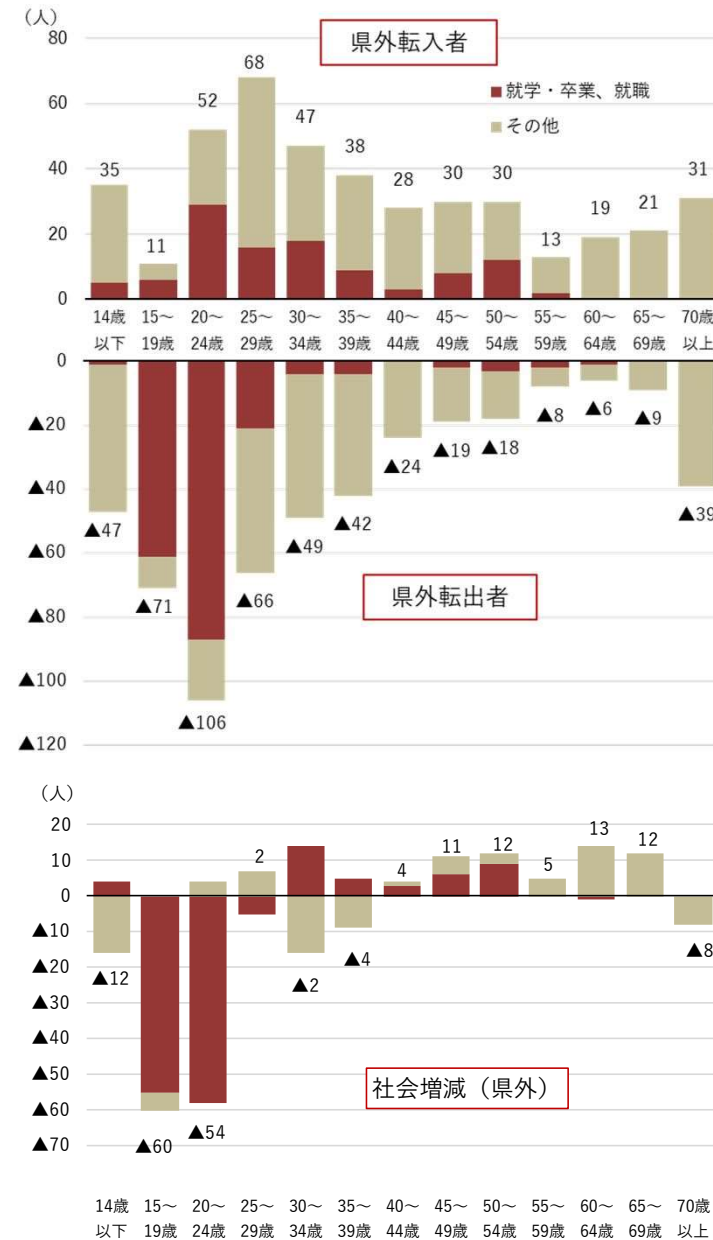
【現状と課題】

- 25～35歳においては、転出入がほぼ均衡している。この若い年代でのUターン施策の強化が必要
- 高校を卒業すると、つながりが持てず、イベントを企画しても参加者が少なく、集めるのが難しい。
- コロナで対面での実施は難しいが、市内出身者がいる学校（広島方面）への訪問を行っている。
- 25歳同窓会や松江高専で大田市のまちづくりを語る会（地元企業、市長参加）を開催
- 誘致したIT企業7社の雇用35名のうち、10名が新卒。雇用の受け皿拡大に取り組んでいる。

【今後の方向性】

- 県外進学者と地元とのつながりを維持するためのコーディネーター的な役割を持つ人が欲しいと考えているが、財源が課題

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 安来市

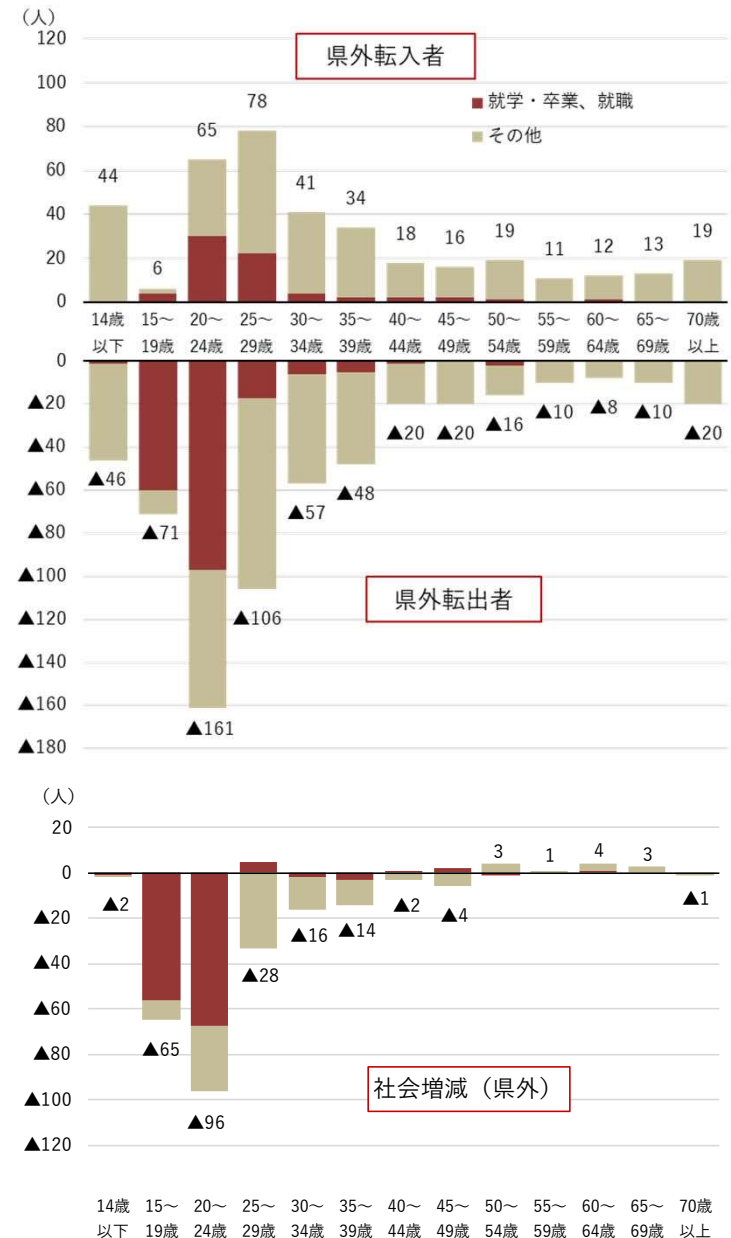
【現状と課題】

- 大学卒業後に安来市へ人材を還流させる取組が必要であるが、具体策を持ち合わせていない。
- 県外大学等へ進学した学生等に対し地元企業の情報発信などを行いたいが、個人情報（メール・住所等）を確認するための手段がない。
- 地元の子どもは地元企業のことを知らないことが多いので、企業情報を知る機会を提供することが必要
- 安来市は製造業の雇用先が多いが、女性が製造業というだけで、朝が早く、汚いという悪いイメージを持ち、敬遠する傾向がある。
- 市内企業への理解、魅力の発見等を目的とした高校生向けの「安来地区仕事発見セミナー」、「企業見学バスツアー」の開催

【今後の方向性】

- 県外の大学生等へ情報発信するにしても、市報や市内企業の紹介等を定期的に届けないと愛情を持ってもらえないので、今後検討していきたい。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 江津市

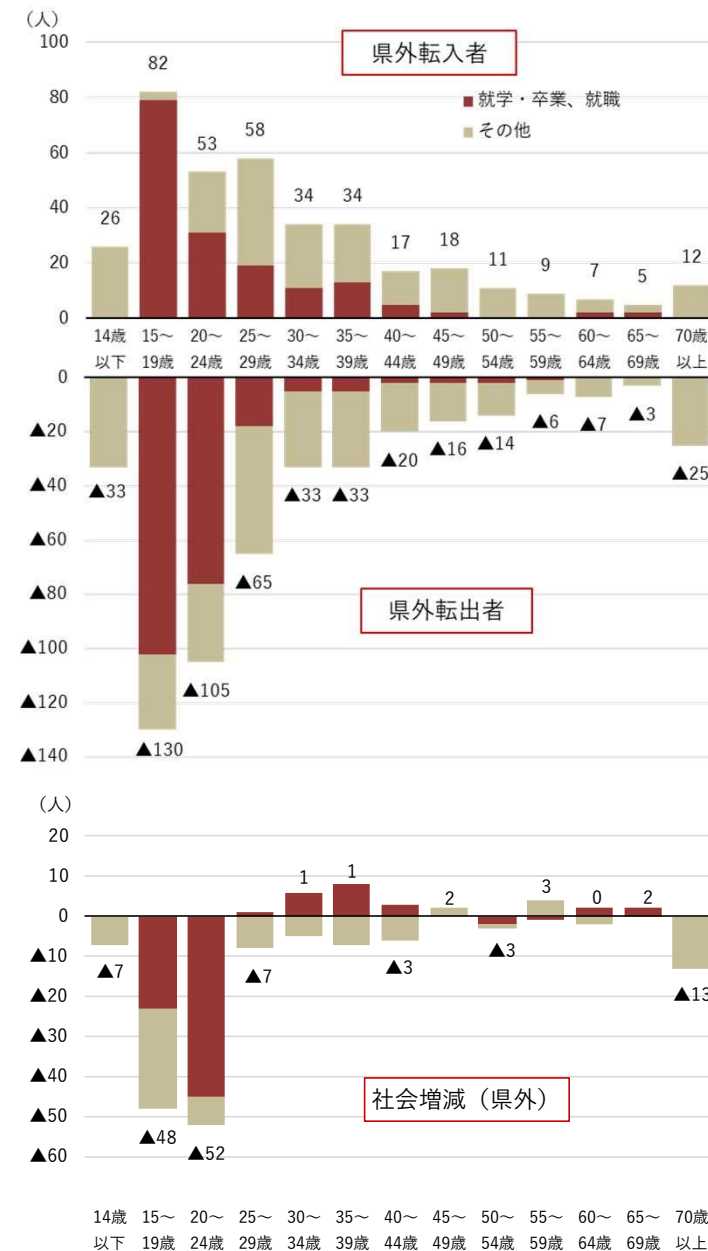
【現状と課題】

- 高校卒業後、市外へ出た方へ「ふるさと定住財団」を通して市内就職先の情報提供を行っているが、市内出身者の把握ができていないなど、有効な情報提供を行う手段がない。
- 市内の高校からこういったところに進学・就職しているかの情報を持っていない。今年からどのような希望を生徒が持っているか高校へヒアリングし、ニーズ把握に取り組んでている。
- 製造業を中心とした新增設により、高卒は地元就職率が向上しているが、大卒者の就職先は不足
- 事務系職場の誘致を進めているが、実績が出ていない。

【今後の方向性】

- 企業の採用状況をきめ細かく情報発信する手段を検討しているが、ハローワークや定住財団との連携が主であり、進学者と直接接する機会の創出を検討したい。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 雲南市

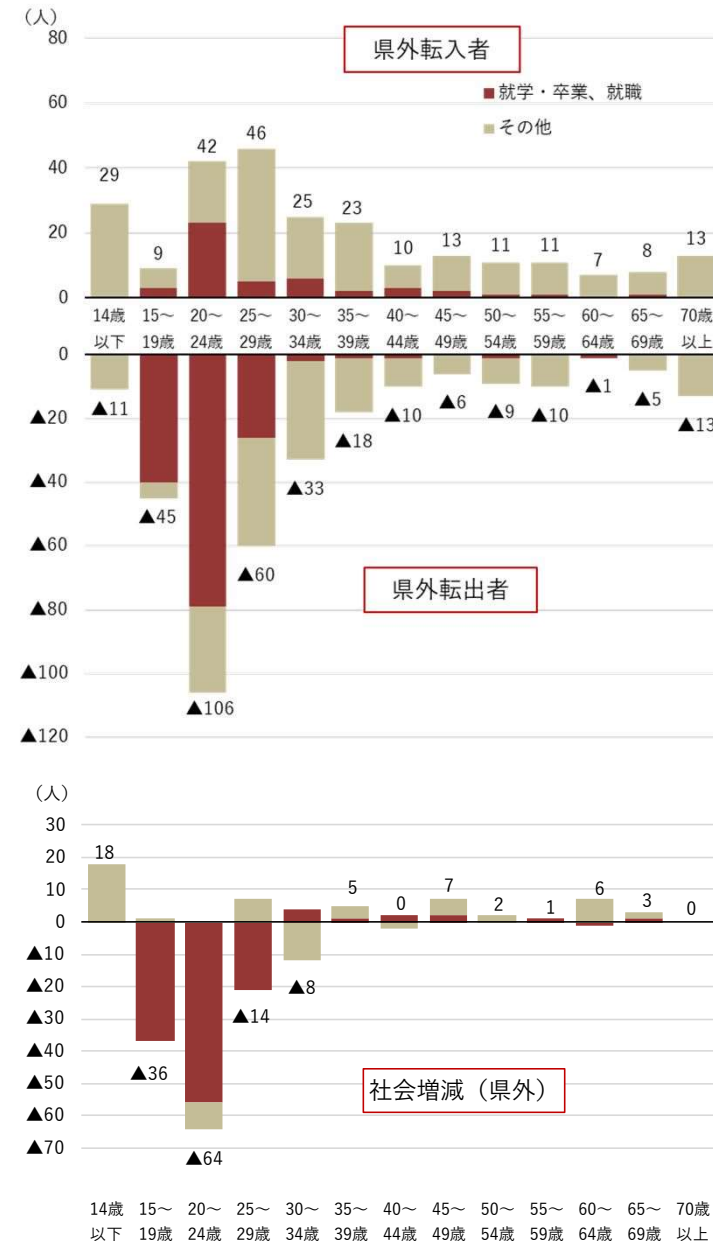
【現状と課題】

- 雲南コミュニティキャンパス推進事業として市内全域を学びのフィールドに見立て、地域自主組織や企業と連携した実践型インターンシップなど、大学生が地域課題解決に向けた取組を行っている。
- この取組により、県内外の大学生と地域との関わりを継続的に持つことができています。
- 高校生へは地元企業の就職について説明会も実施しているが、大学生への地元企業の案内や声かけが難しい。
- 若者や女性に人気のある職種や職場が少ないため、仕事を求めて県外や市外に人口が流れてしまう。

【今後の方向性】

- 高校生へのキャリア教育を行っており、大学進学で市を出た後も帰って来てもらいたいが、仕事の面で弱いため、受け皿の拡充を考えていきたい。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 奥出雲町

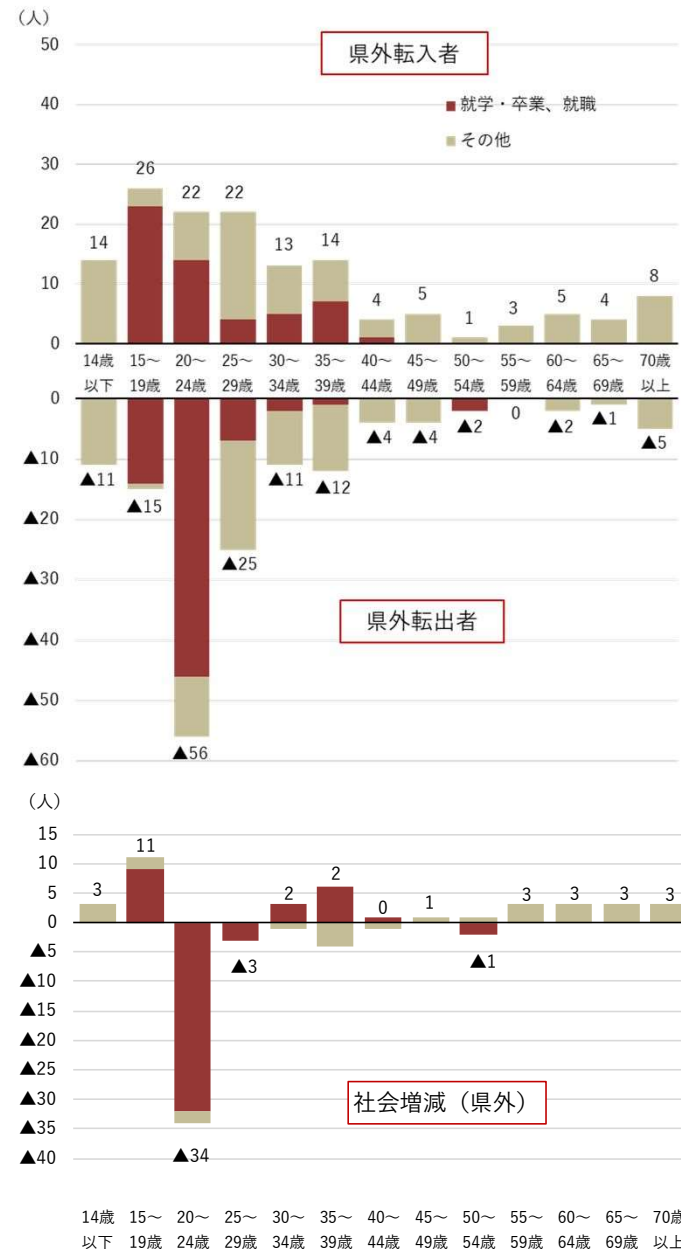
【現状と課題】

- 小中高連携した「ふるさと教育」一定効果はあるが、転出後の「つながり」の継続性が課題
- 働く場は県内、住む所は奥出雲町といった政策が現実的であり、県外学生に対してのアプローチについては、県と連携した取組が必要
- 高校魅力化コンソーシアムでの関わりの深度によって、卒業後に情報が子どもに届く・届かないか変わってくる。
- 町独自の学生登録を実施。登録者に町就職支援施策などのチラシを配布。県の学生登録と情報共有できる仕組みにしていきたい。

【今後の方向性】

- 学生登録者に対して、今後、紙媒体からSNSを利用した情報発信も必要と感じている。
- 町内企業でも両親の意見で就職を決めたという声を多く聞く。保護者に対して情報提供する仕組みを整え、保護者から学生にアプローチする形が効果的ではないか。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 飯南町

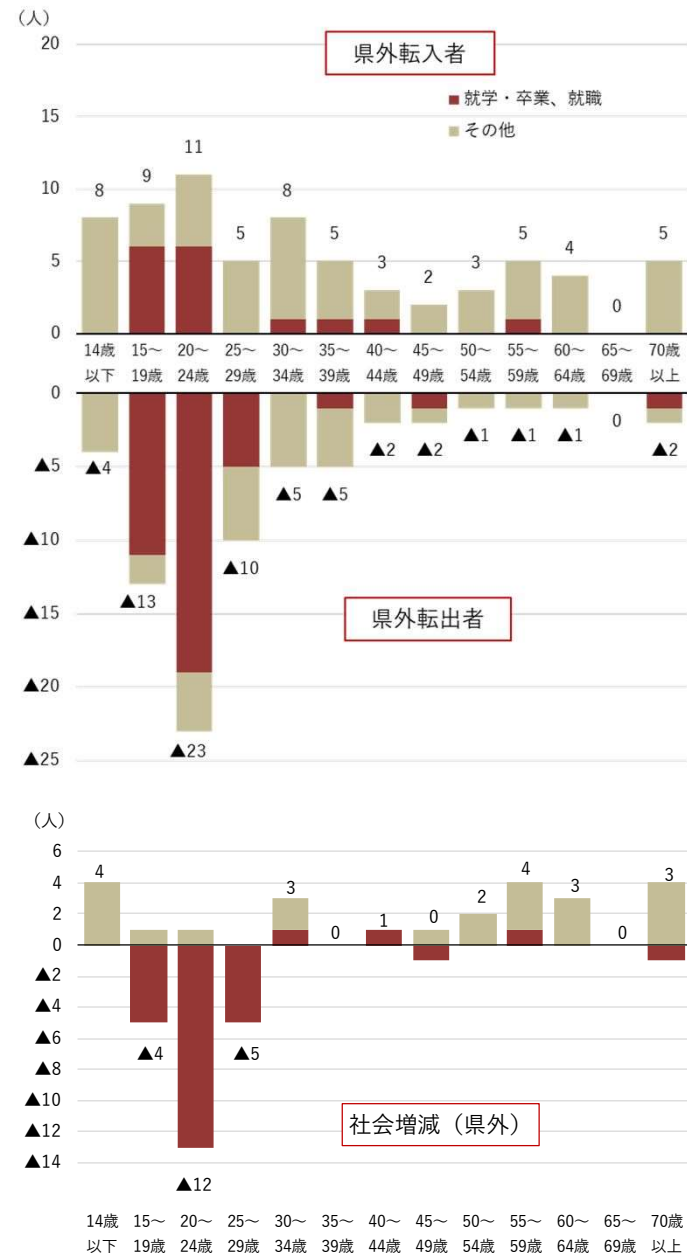
【現状と課題】

- 高校の卒業生は、本町と何かしらの関りを持ちたいという希望はあるが、どのような関りやつながりを行えばよいか具体的な内容が見つからない。
- 一旦都会で就職しても、都会の生活費などを理由に離職する若者もいる。それをターゲットに、卒業後3、4年間は情報を送り続ける仕組みも必要
- 医師・看護師・介護福祉士など医療福祉従者を目指す学生を支援（医療スタッフと学生との交流会の開催など）しており、毎年卒業後に飯南病院等に就職する仕組みができています。

【今後の方向性】

- 高校存続のため、生徒確保に注力しており、高校卒業後の対策までは十分に手が回らない。今後は、卒業後も関りが持てる仕組み作りが必要
- 定着には、仲の良い地元の方や同級生などが地元にいるという事が重要。この関係者を介した情報発信が効果的ではないか。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 川本町

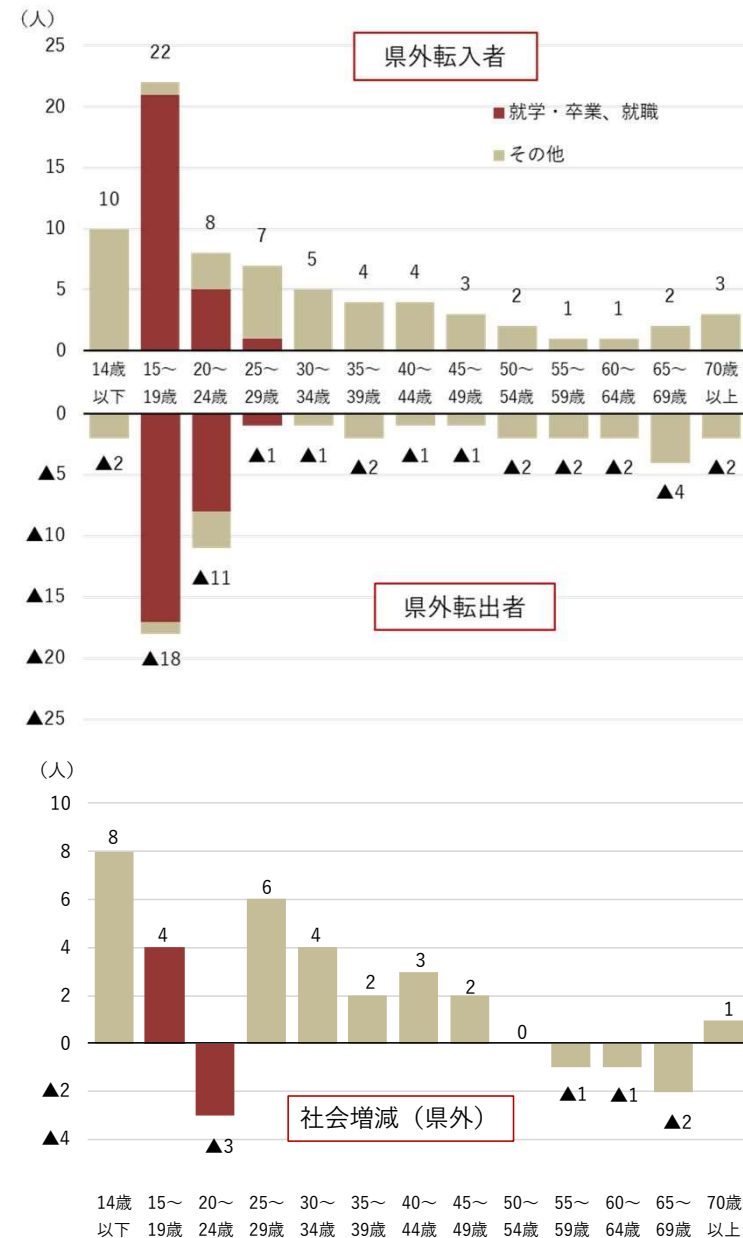
【現状と課題】

- 中央高校の県外入学が増えた（全体の1/3が県外生）こともあり、卒業後の関係人口は多い素地があるが、活かさきれていない。
- 学校紹介する際に卒業生に手伝ってもらっているが関わりは限定的。継続的な仕組みの構築が必要
- 町出身者の学生のデータ管理が大変。親伝いで情報を集め更新を行っているが限界がある。
- 学生だけに留まらず、「関係人口」としてかわもと暮らしのLINE登録を増やす取組を試行的に実施

【今後の方向性】

- 県外へ進学した地元出身学生や、島根中央高校の県外入学生に対して、卒業後も地域とのつながりを維持する取組を今後行っていきたい考え
- 寮の交流スペースを高校卒業生への情報発信や就職・定住の専用窓口として活用し、つながりづくりの拠点としたいと考えている。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 美郷町

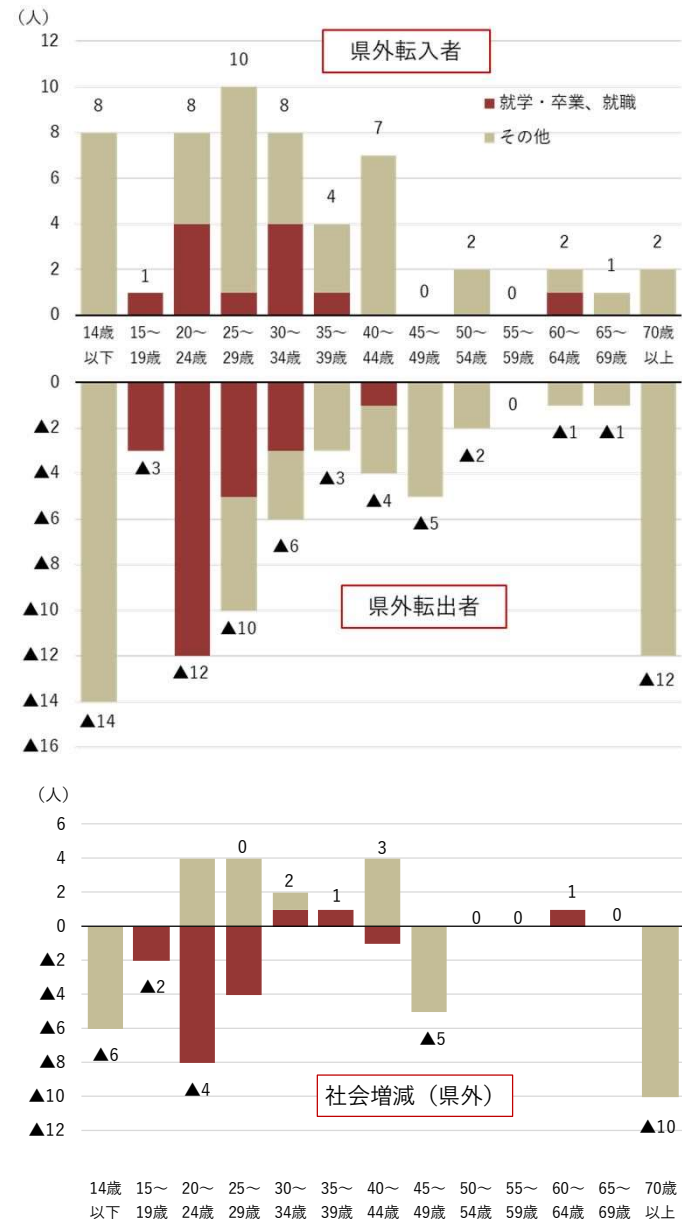
【現状と課題】

- 町奨学金の奨学生に対して、支給時に町の情報誌を送付している程度で、システムとして繋がりを維持するための仕組みまでできていない。
- 昨年度実施した美郷町ふるさと学生応援事業の申請者について、メールアドレスや住所などの情報をリスト化したが、管理に手間がかかる。情報発信も十分にできていない。
- 町内に高校がないことから、大学進学に加え、高校進学時の転出も社会減の大きな要因

【今後の方向性】

- お盆に帰省した際に就職相談会を開催したり、メール送付などを検討しているが、手段・内容について、もっと戦略的に対策できないか検討中
- 県の学生登録の情報を市町村と相互利用できると、選択肢が増え、町の施策の展開も変わってくる。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 邑南町

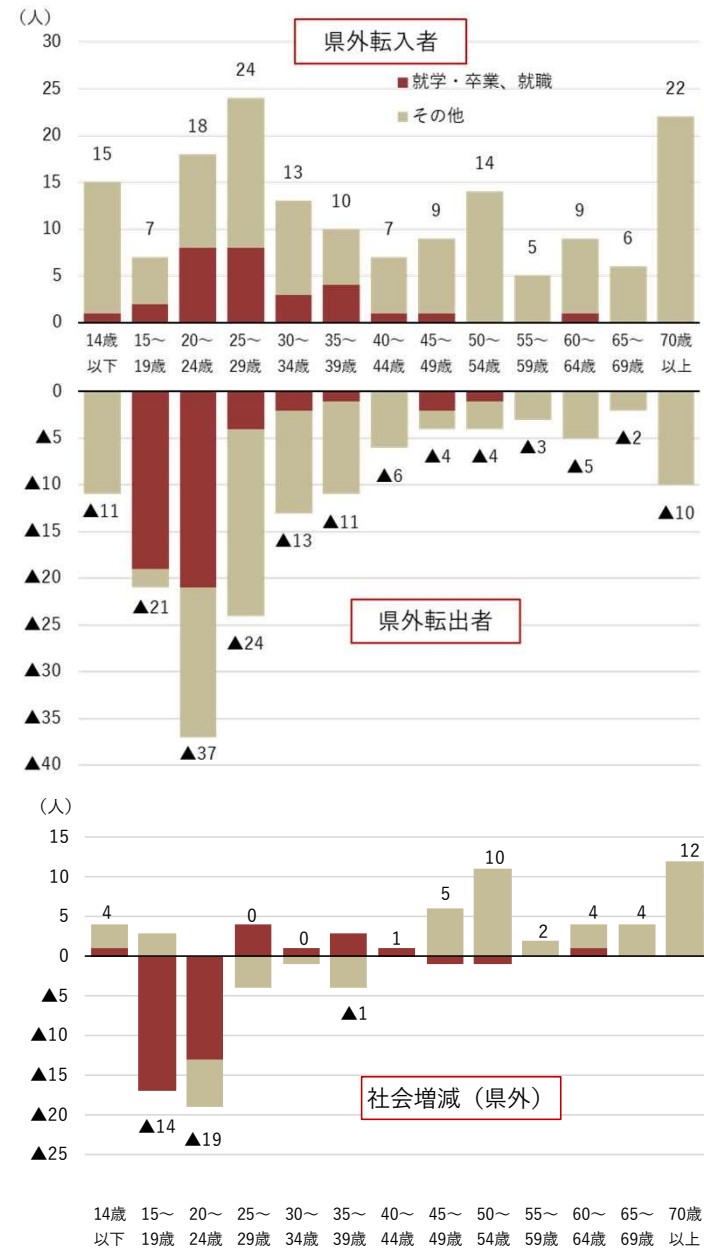
【現状と課題】

- 高校卒業後、卒業生と地元との関係は切れている。特効薬はなく、高校3年間でしっかり意識付けするしかない。
- 様々な施策がUターン者の増加にどの程度効果があるか検証や振り返りが難しく、今後どのような取組をするか考える必要がある。
- 県外に転出した人たちに対してアプローチは少なく、新たな取組を検討する必要がある。

【今後の方向性】

- 都会に魅力的な遊び場がある中で、町に戻ってきてもらうためには、地元にいる同級生の存在が非常に大きい。地元にいる子を活用していきたい。
- 県立大学（特に地域づくりコース）との連携強化を図る。地元高校生の進学者を増やし、町内のフィールドワークで地域の人と関わりを持ち、卒業後に戻ってきてくれることを期待している。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 津和野町

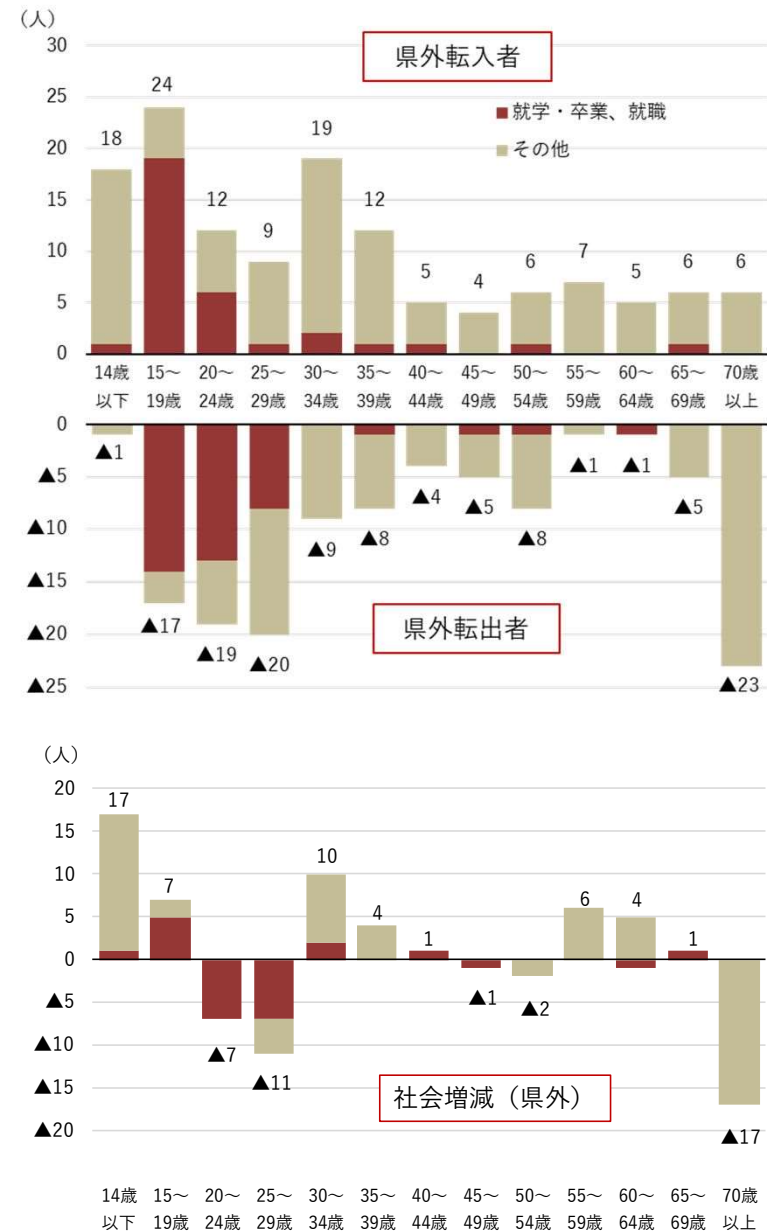
【現状と課題】

- (一財) つわの学びみらいを設立し、県内外の大学生と県立津和野高校のマッチングを開始
- マッチングにより、津和野高校出身等の県外大学生が4名、高校にインターンシップで来ている。動機は高校を過ごした町に貢献したいから。
- 課題は、受け入れた学生の宿泊施設がないこと、ホテル等利用した場合の宿泊料の負担がネック

【今後の方向性】

- 若者の就職先確保のため、IT系専門事務職場の誘致を進め、実績も出ているが、誘致後の人材確保に苦慮。今後、町外出身者に町内にIT系事務職場があることを知っていただく取組が必要
- 女性視点で住みよいまちづくりの助言・提言をいただくため津和野町女性会議を開催。課題解決に向け、取組を実践できる団体の構築を検討中

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 吉賀町

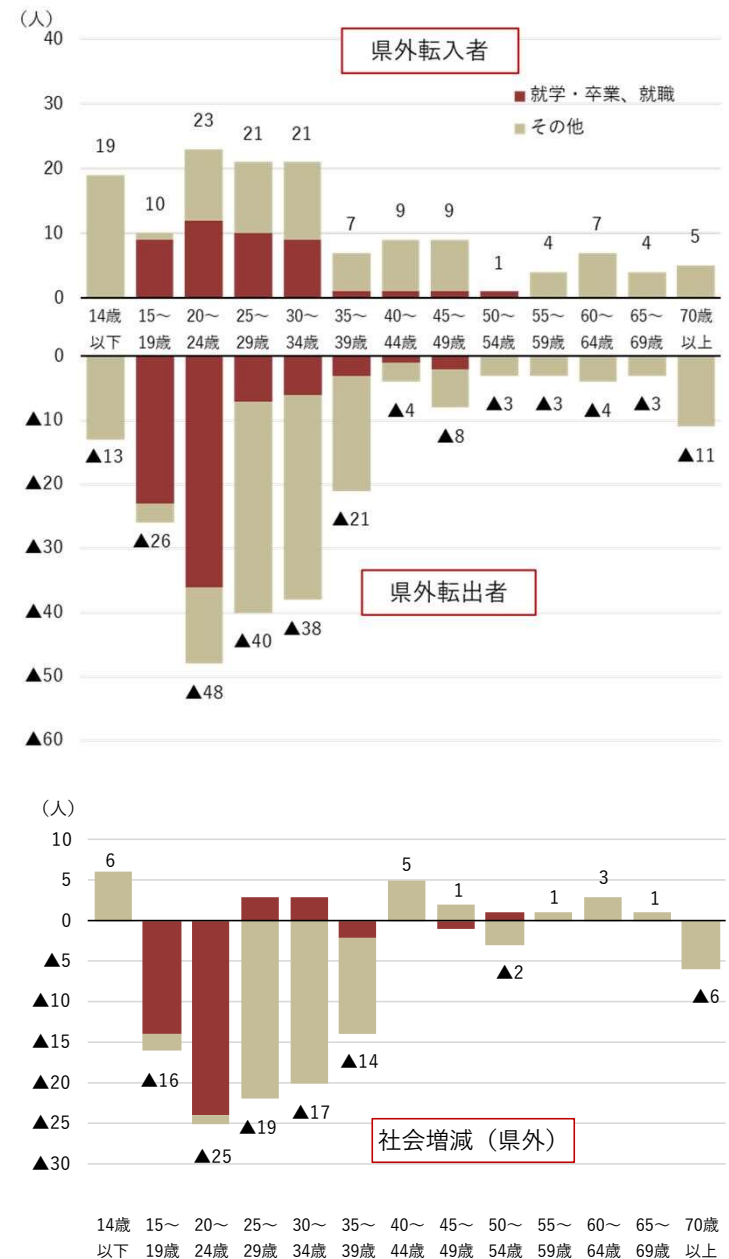
【現状と課題】

- 吉賀高校の県外生徒等の受け入れにより、15～19歳の転入も増えてはいるが、卒業後、町内に残る生徒はおらず、転出の数が上回っている。
- 地元の学生への呼び戻し策としては、成人式でパンフレットなど資料の配布を行っている程度
- 大卒の新規採用が、大手製造業者や役場など町内で限られており、大卒者が就職できる雇用の場の確保が課題
- 雇用の確保のほか、住宅の確保も課題。民間アパートや適当な空き家が不足しており、企業の細かいニーズ把握まで対応できていない。

【今後の方向性】

- 「吉賀町人材確保・定着推進協議会」において、人材確保・定着、雇用の場の確保のため、町内企業の魅力化やモデル的な取組支援を検討している。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 海士町

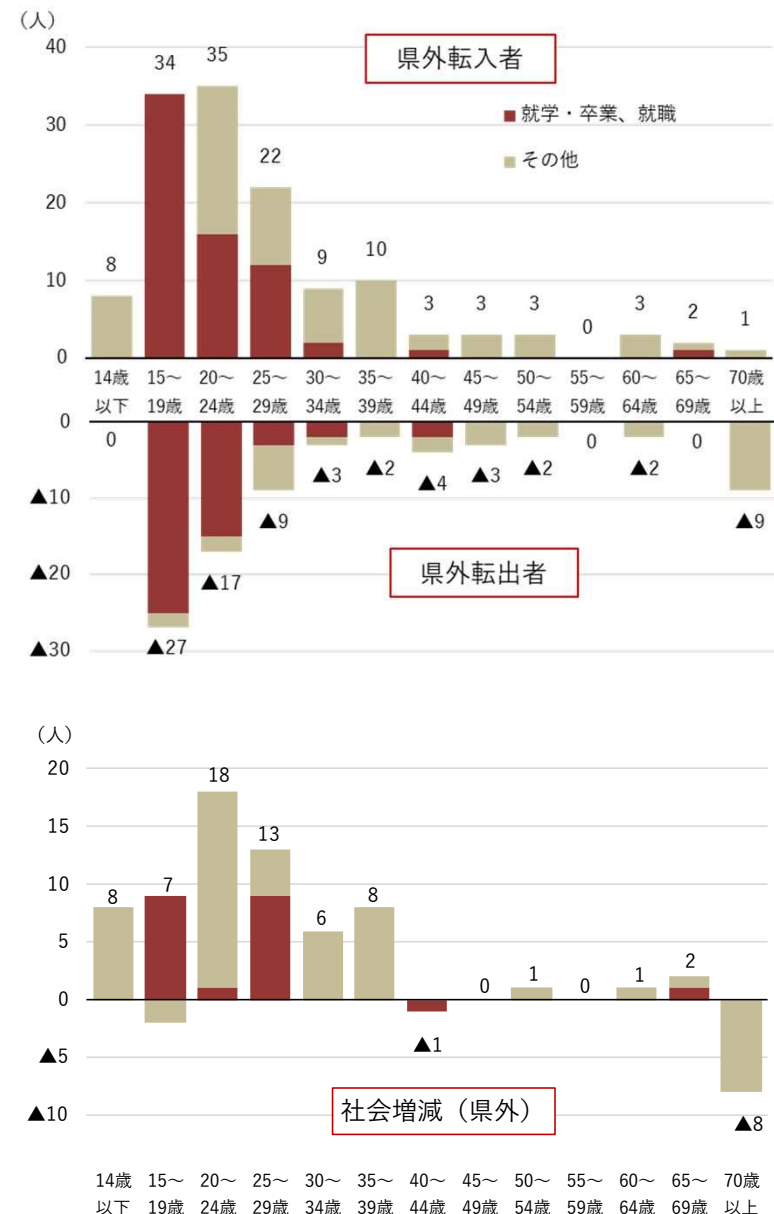
【現状と課題】

- 島前高校の卒業生との町とのつながりも薄れ、十分なアプローチができない状況
- 一番大事なのは、卒業後も繋がり続けることと、若いうちに再度島に滞在し働いてみる
- 高校の卒業生に聞くと、卒業後も町と関わり続けたいが、関係が切れてしまい、町の仕事もわからず、相談する人もいない状況になっているとのこと
- この状況を踏まえ、中長期お試し就労体験である「大人の島留学」、3ヶ月の短期インターン制度「島体験」を実施。貴重な若手人材として活躍中

【今後の方向性】

- R3からは、上記の取組や「海士町複業協同組合」、「半官半X」等を含んだ各課横断の「海士町還流おこしプロジェクト」を開始。滞在人口の増を目指す。
- 滞在人口を増やすためには、空き家など滞在先の確保が課題。借上期間の短縮化や町による動産処分・修繕により、空き家確保を進めている。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 西ノ島町

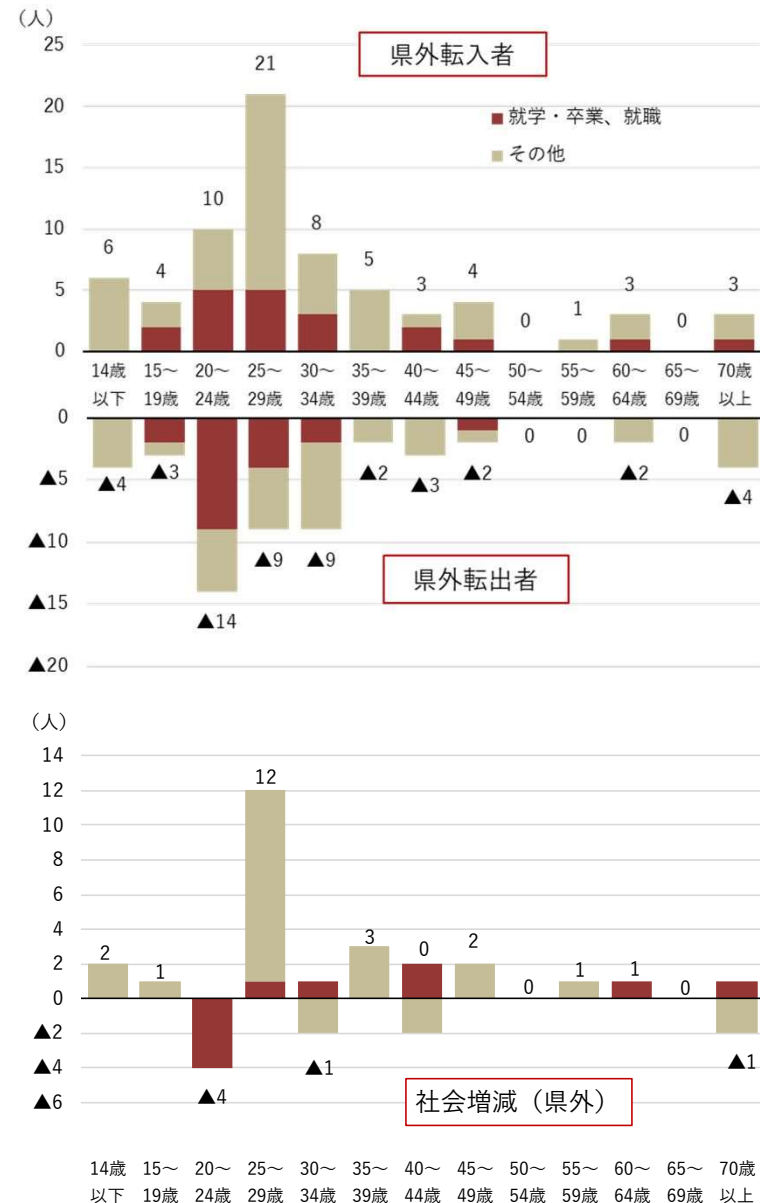
【現状と課題】

- 県外の大学へ進学した学生がどの程度いるか町では把握していないため、取組の実施前に情報を集めるための仕組み作りが必要
- 離島という地理的要因もあり、雇用先や職種が限られ、大卒後にUターンして就職する事例は少ない。特に新卒・第2新卒の女性に魅力的な雇用先がない。
- 若者に魅力のある職場づくりのため、事業者にどのようにアプローチしていけばよいか具体的なイメージがわからない。
- 首都圏のIT関連企業に対して、サテライトオフィス設置に向け働きかけを行っている。

【今後の方向性】

- 事業のPRや働き手確保に係る情報発信の手法に課題を感じている。県にもご協力いただきながら、効果的な情報発信を行っていきたい。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 知夫村

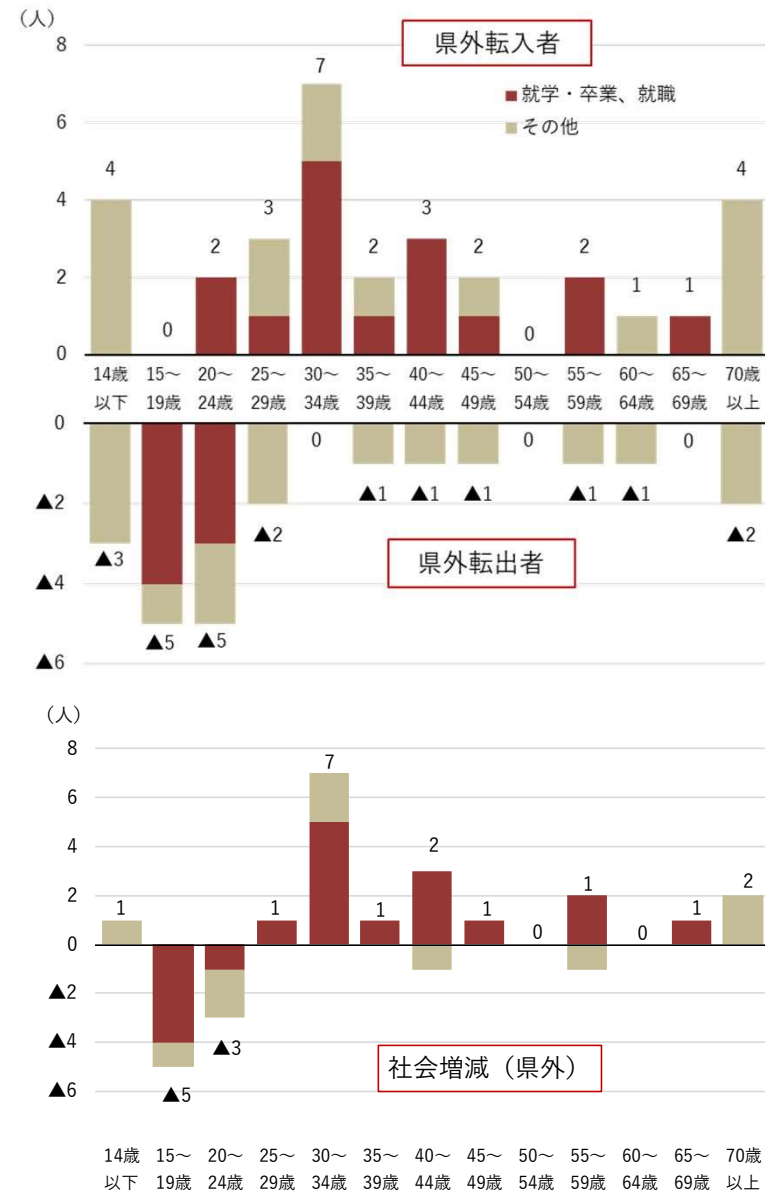
【現状と課題】

- 島前高校卒業生は、夢探求などで大学時代にもつながりを持つ例がある。
- 現状のUターン取組は1ターン中心で20代の女性や新卒者もいる。Uターンは新卒よりいったん就職した後の方（第2新卒）が多い。

【今後の方向性】

- 海士町が実施している大人の島留学制度の導入を検討している。地元出身の学生だけでなく幅広い学生や若者世代と交流・関係をもち、つながりを維持したい。
- 第2新卒の戻り対策としては、村内の求人状況を一元化し情報の発信を検討している。
- 今後、大学生の研修を積極的に受け入れたい。福祉・看護系では県立大学の学生など、これまでも行ってきたが、そのまま村内に就職した例もある。

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）



[参考資料] 隠岐の島町

【現状と課題】

- 町内の求人状況を見ると、業種が偏っており、帰りたけれど仕事がない、求人と求職のミスマッチが大きな課題
- 仕事だけでなく他の理由で地元に戻りたいと考える出身者に戻ってきてもらうためにも、高校生までのつながりを途切らせない取組は大事
- 現在は、夏に帰省する出身者への就職相談会の開催、ハローワークの求人情報を町広報誌に乗せて全戸配布するなど取り組んでいる。

【今後の方向性】

- 島内での就職相談会は、離島という地理的要因により、新卒者等の参加は非常に少ない。島外での就職相談会の開催を検討中
- 学生・家族への求人情報や各種イベント等の定期的な情報発信、SNSを活用した地元とのつながりづくりなど、関係人口をつなぎとめる仕掛けづくりを検討中

【参考】令和3年の県外との社会移動（年齢・理由別）

